

## 我が故郷北朝鮮の現況に思う（94・9・12）

山中重男（昭17・9・文丙）

私が三高に参りました事については西田亀久夫先輩の話しが大変重大なんです。三年の時に羅南中学に來られて、三高のお話しをされて益々三高に行きたくなつたと言うのが本當のところでございます。私の唯一の自慢は三高を四回受けて四回落こちた事でございます。なぜ四回落こちてここに何故居るかと言つと補欠で入つたからでございます。文科系たつた一人の補欠で文丙に入れて頂いて今の私があります。

今、都知事の鈴木さんが居られましたんですが、今日は私の家内の母中尾恒が百才のお祝いで、鈴木知事からお祝いを頂いたとこなんです。それでお礼を申し上げました。立派なお祝を頂きました。こうやって十二日会、皆さん大先輩にお呼び頂いて本當に光榮至極に存じます。

題は「生れ故郷北鮮の現況に思う」と言う事になっていますが、脱線いたすと思つて一応メモ書きをお配りした次第です。鈴木さんも「ハルシオン」を飲んでおられるようですが私も五年程

飲みつつけております。今日お聞きしましたら、一錠では多過ぎるので半錠のほうがいいんじゃないかと言われるので、今夜からさっそく半錠にしようかと思つて居ります。実に素晴らしい薬で夢なんか見た事ないぐらいです。ぐっすり寝てしまいます。皆さんの中で不眠症の方があつたら是非お勧めします。しかしお医者さんの処方箋が無いとくれませんので、一応医者にご相談される事が必要でございます。

私は羅南中学一〇回卒業生でございますが、これは朝鮮で一番北の端の中学でした。そして小学校は今やかましい豆満江開発の中心でございます「雄基」と言う所でございます、これは又一番北の端の小学校でございます。雄基で生まれてずっと育つておりました。昭和八年ですが彦根中学に一時来たんです。その時に初めて物心ついて日本の内地に来たんですが、非常な衝撃を受けました。それは内地一般が余りにも貧しかったからです。その貧しさに仰天しちゃったんです。それぐらい北朝鮮は繁栄しとった訳です。つまり鉄山ちうたら「茂山」と言う所に五十億トンの埋蔵量が有るんです。これはアジア随一でございます。それから石炭なんてのは無煙炭を含めまして無尽蔵にございます。それから水力発電と言いますと、今だつて「水豊ダム」その当時一〇〇万キロだつたんですが、その一〇〇万キロワットを追い抜く水力発電所と言うのは、揚水式のものには別にして日本には無い訳です。「只見ダム」の発電所だつてせいぜい四〇万キロワットですね。水豊ダムに続く水力発電も沢山ある訳でございます、又、モリブデンとか今で

いうウランですがね。そういう鉸山も沢山ありまして、そのモリブデン鉸山の一つは親父が持つて居りました。それから北朝鮮でトラックなんか造つて居る訳ですが、唯一の自動車工場が清津にございまして、これも親父が建てた工場でございます。今やかましいミサイルなんかもそこで造つて居る様でございます。と言うと今世界の緊張の元になっておる北朝鮮の原子爆弾もミサイルも、どうも親父の遺産の様でございます。

私には何にも残されていないんですけれども、大変な遺産を北鮮には残しているんじゃないかと思つて居ります。所が五〇年たった現在ですね、北朝鮮は食糧の配給さえもまゝにならんと言う様な貧しい国に転落しておる訳です。もう南鮮に比べても一〇分の一にもなるかどうかですね。ところが終戦直前当時は逆に北朝鮮の経済力と言うのは南鮮の九倍だと言われていました。それが今ではまったく逆転しているわけですね、ましてや日本とは比べものになりません。その様に貧しくした元凶は他ならぬ金日成だと思つてすけれども、その金日成がこの間急に亡くなつてですね、実は北朝鮮がどうしてこんなに貧乏になつたか金日成にお聞したいと思つてたんです。急に亡くなつたので出来ませんけれども、でも何う所によると北朝鮮と言うのは世界で初めて一〇〇%の共産化を遂行しようとしてたんです。ソ連も中共も一〇〇%じゃないんです。私有権を認めている訳です。それをまったく認めないんです北鮮は。そう言う事が重つて転落したんだと思つて居ります。金日成と言うのは、だいたいあれ偽者です。我々が昭和一〇年頃ですが金日成は

我々日本人の間、内地人の間でも英雄だったんです。北鮮の警察隊と言ったら軍隊とほとんど一緒で、機関銃なんか持っているわけです。そしてその警察隊が金日成征伐にですね白頭山の方によく出かけていたんですね。それが一ぺんも捕らない、いつも失敗している。敵ながらあっぱれだと言う事で我々も敬意を払うとったんです。

その頃金日成と言うのは年の頃三十五、六の日本の明大を出たインテリだと言われていたんです。そうすると昭和一〇年頃三十五、六才と言うと今九〇を越えていないと年が合わないですね。だからあれは偽者だと思っし、我々からも尊敬を受けていた様な金日成なら自分の息子を後釜に据えようなんて事は毛頭考えないと思っんです。しかもあんな出来の悪い息子をですね、おかしいんです、そもそも。ところが金日成個人としてはそうとう偉いやつだと思っますね。だから戦前の状況を知っている訳ですよ金日成は。あんなに繁栄した北鮮をですね、やっぱり自分のやっていた一〇〇%共産化という路線がやはり良くなかったと言う事で、何とか路線を変えたいと思っただらそうです。ところが金正日とか若手の官僚達はそういう体験がございませんので金日成の言う事が判らないんですね、理解出来ないんです。それで徹夜の大激論になってとうとう朝方になって心筋梗塞で倒れたと言うのがどうも真相の様でございます。

ところが我々から考えると北鮮を貧しくした元凶である金日成がですね亡くなったと言うのに北鮮を揚げて嘆き悲しんでいる。演出もあると言われながら他の事は出て来ません。テレビに出

て来るのは嘆き悲しんでいる様子ばかりです。極めて奇妙ですよね、と言う事を考えるとピンと来るものがあるのです。我が日本にも同じ様な体験があったなあと言う事です。それも歴史的に振り返りますと明治維新です。幕末にペリー提督が日本にやって来て開国を迫った訳です。それで井伊大老は開国した訳です。ところが開国に対して尊皇攘夷の勤王の志士達が何千人も活躍したと思うし、おそらく何百人で済まぬ人達が命を捨てたと思うんです。ところが明治維新の日本がどうなったかと言うと、日本が開国して今までありました士農工商の封建社会が四民平等の近代社会に変わった訳です。つまり日本が社会的に開放されたんだと思うんです。それで勤皇の志士達がそういう日本を開放する為に戦ったんだと言うんだったら分かるんですけれども、どうもそうではなかった様ですね。

又我々の直接の体験では第二次世界大戦ですね、何千人という特攻隊員を含めて私の親父もその一人なんですけど、三百万人の犠牲者を出して日本がどうなったかと言うことですね。最後の最後まで日本の要求は国体護持だったんですけれども、でも現在どうかと言うと主権在民の民主国家になったでしょ。それで国体護持はどうなったかと言ったら象徴天皇になった訳です。現在の新憲法が審議された国会では、象徴天皇とは何かと聞かれたんですね。それで憲法担当の國務大臣だった金森徳次郎先生は、天皇は日本国民の「憧れの的」である。「憧れの的」だから象徴だと答弁されたんです。それで拍手喝采でこれは名答だということになって、「天皇憧れ論」

と言うことに定着しとったんです。

ところが、それから十年もたつうちに、私が福島県に居りました時に職員研修と言うのが流行りまして、県庁もそれでお前さん憲法の教科書を作れと言われました、それで今フィリピン大使をしていきます松田慶文君と言うのがちょうど来て居りましたんで彼と二人でかかったんです。ところが憲法の前文でたちまち引つ掛かっちゃったんです。「主権在民」と「天皇の象徴」というのを二つ謳<sup>うた</sup>つとる訳です。前文については僕は「金森さんの言う通り「天皇憧れ論」でいいじゃないかって』言ったら全然分かれんと言うのです。それで僕は弱っちゃったんです。それで苦労して考え出したのは主権在民、つまり一億二千万の日本国民全てが主権者であると、昔は天皇一人だったんだ。ところが今一億二千万人になっておると。そうすると天皇はなんだと言うと主権者のモデルとして考えたかどうかと。モデルと言うのは元々象徴でございますから、だから象徴と言うのは論理的にもピツタリくるんですね。それでこれだ、これだと思つてその時まで金森徳次郎先生が国立国会図書館長をしておられましたんで、早速東京へ出張させてもらつてですね、先生に聞いたんですよ。「これでどうか」と。「先生の天皇憧れ論なんて今は通りませんよ」と言つたんですよ。なるほど論理的にはいいと、しかしと言われたんです。

論理的に考えてみて王制なんか不必要だと言う事で、王様とマリーアントワネット女王をギロチンにかけたフランスはどうなっているかと。その当時なるほどフランスの政権というのは一年

続いた政権は無いんです。八月月とか九月月なんですよ。だからそういう事をするとか政権が不安定でフランスの国力の発展にも影響するんじゃないかと。そしてイギリスを見てみると、キングやクイーンが居られるお陰で政情が安定しているので何百年と繁栄を続けているんじゃないかと。南米諸国は年がら年中クーデター騒ぎなんですけれども、ただ一カ国だけチリだと思えますが、そこだけは建国以来スペインの貴族がですね、社会的にも政治的にも中心になっていって。だから安定して発展しているんじゃないかと。人間の体だってそうじゃないかと思うんです。おへそなんてのは母親のお腹に居る時は必要だけれど生まれてからは必要無いんじゃないかと。と言う事で外科手術で取ったらどういふ事になるか。どうも故障が起こると言う話じゃないか、大体カエルの腹みたくになって落ち着きがないんじゃないかと言うんですね。

　　国立国会図書館長と言うのは大臣待遇でございまして、お正月になると天皇の所に挨拶に行かれるようです。その天皇の所へ行つて挨拶するとですね、いかにも新年を迎えたというような何とも言えない清々しい気分になると。だから私としては「天皇懂れ論」の方がいいと思うと言われました。それは我々もどつちかと言うと、皆さんも近いと思うんですけれども。しかし若い連中は中々分らないと思うんですが。理論と言うものは自然科学でも人文科学でも実験の結果ですね、効果が有ると言う事で初めて真理となると思うんです。私、福島県で労政課長しとったんですけれども、それは昭和三十年頃ですから、まだ経済発展が十分で無くてですね。毎年年末にな

るとストライキ騒ぎだったんです。その時もうゆるニコヨンですね。日雇い労働者、それは県庁が雇い主になりますので県庁にストライキをかける訳です。そして年末に何十人というニコヨンの方が、僕が県庁に行きました時に座り込みをやりました。

ところが福島県庁というのは東北の三大馬鹿の一つと言われるぐらい昭和二十年代に建った県庁としては全国的にはものすごく豪勢だったんです。ところがまだ廊下にはまだ暖房が無かったです。そこに座り込んでいる訳でしょ。それで気の毒になって代わりばんこに労政課の部屋で一服してもらったんです。そしてお昼になりまして、お弁当なんか持っておりませんから県庁の食堂からラーメンとかなにか取って食べて頂いたりしたんです。そして段々ニコヨンの人達の態度が変わりまして部屋に入って来る頃には鉢巻はちまきとか襷たすきを取られましてね、そして「お世話になります」と言って入って来られる。そういうしているうちに、商工労働部長が雇用主の代表になる訳ですが、その雇用主とニコヨンの間がとてもなごやかになっちゃって解決しまして、それからは福島県ではニコヨンによるそういう座り込みなんていう事件は無くなっちゃったんですよ。その時にふと心に浮んだことがあります。

我々が三高に行っていた時に三条大橋のたもとに高山彦久郎の銅像が有りました。あれをなんとなく思い浮かべとったんですよ。と言うのは先程の理論でニコヨンの方も主権者の御一人だった訳ですよ、その人達が経済的に今困っておられると言うことは高山彦久郎が幕末にですね、



皇室の疲弊を嘆いて三条大橋から遙拝しておったというのがその銅像なんですよ。それと同じような気分になっていた訳ですね。そして福島町の町なんか歩いていると道路工事なんかしているニコヨンの方々が挨拶してくれるんですよ。これにはものすごく感動しましたですね。これは役人冥利につきると思つて感動しました。という事は金森先生の「天皇懂れ論」よりは僕の「天皇モデル論」の方が正しいんじゃないかと今だに確信しておる訳です。

また今ですね、貿易摩擦とか言つて騒いでおりますけど、これも極めておかしい事件だと思うんですよ。アメリカの要求はですね、消費者中心の経済体制にせよという要求なんですよ。今まではどうだったかと。これは明治維新の結果ですね、富国強兵でないと日本はもたんと、植民地にされちゃうと言う事で大久保利通なんか富国強兵策を打ち出したのは納得出来ます。そして生産者中心の経済体制になつて行つたと、これも分かります。しかし消費者である一般国民が犠牲になつた事も事実です。ところが、現在までになると大久保利通の富国強兵策もそろそろ反省すべきではないかと思ひます。消費者中心の経済体制に切り変えるべきだと思ふんです。ところが日本政府は相も変わらずメーカー中心の、生産者中心の交渉を一生懸命やつとるんですよ。いずれどうなるかという明治維新もそうだったし、第二次大戦もそうだったし、アメリカという最も若い国家ですよ。主権在民の国家ですよ。

そのアメリカの言う事が我々日本人にとつてもやつぱり有利ではないかと言うのは、この百何

十年の体験からしても思う訳ですよ。そして結局組織というのはどうあらねばならないかという  
と、一番最後に図式が書いてありますがその図式はですね、三角形が二つ重ねてあります。一つ  
はピラミッド、一つは逆ピラミッドになっております。ピラミッド型というのは日本帝国憲法時  
代の様子でございます。天皇主権でございます。主権は天皇御一人ですから天皇がトップに居ら  
れる。そして底辺に国民が居る。その間に総理大臣はじめ府県や市町村というような行政組織が  
入っているとこういう格好でございます。それが何故逆転したかという、天皇モデル論を以て  
表わすと逆三角形にならざるを得ないと思うんです。逆三角形の逆の方に総理大臣とか今居られ  
た鈴木知事とかですね、市町村長が居るといふ格好が最もまともな有り方だと思っんです。とい  
うのは西田哲学で言う絶対矛盾の自己同一という言葉がございます。相反するものは分けられな  
くて一つだと言う事なんです。それは上がなければ下もない、下がなければ上もないと、右も左  
もみんな一緒ですね。世の中のものみんなそうなつとると言うんですよ。それが絶対矛盾の自  
己同一の原理なんです。それを組織に当てはめると上であると言う事は同時に下でなきゃならな  
いんですよ。下であると言う事は同時に上でなきゃならないのです。それを実施すると逆三角形  
になってしまう訳です。そしてそういう組織でないと長持ちしないと申すことはですね、これは  
我々の生きた七十年前後ですね、歴史も示しているんじゃないでしょうか。

大変この頃読んで感心した本があります。それは「鹿鳴館の貴婦人、大山捨松」という題で大

山捨松の曾孫が書いたドキュメンタリーです。それを見ますと、実におもしろい事が書いてあるんですね、幕末の頃咸臨丸と言う船で幕府の使節団がアメリカに渡っております。それは使節団長は木村撰津守、それから小栗上野之介、それから勝海舟は艦長、福沢諭吉は従者という形で一緒にに行っている訳です。そしてチョンマゲして、羽織袴で、日本刀を差して行っている訳です。まったく日本の服装で行っている訳です。ところが日本の使節団を見てアメリカ人はビックリして居るんですね、それはその代表はですね、ウォルター・ホイットマント、そうアメリカを代表する詩人が居ります。その詩人がですね、東洋から来た誠にすばらしい日本の使節団という事で「ブロードウェイマーチ」という長い長い詩を書いてます。もう絶賛している訳です。日本の使節団をところが十年足らずの間に明治維新になって、明治政府の有名な岩倉具視の使節がアメリカへ行つとる訳です。ところがこれはどうだったかと言うと、向こうの新聞評によりますとアメリカのご婦人方が尻を追いかけ回すようなすばらしい男性は一人も居ないと書いてあるんですね。全然感銘を与えなかつたんです。岩倉具視の使節団は一体何処が違うかと言うんですね。十年足らずです。同じ日本の代表者です。しかしその岩倉具視の使節団でも絶賛を浴びた人達があるんです。それは一緒に連れて行かれた五人の女子留学生です。これは山川捨松ですね。結婚前は。そして津田梅子なんです。山川捨松は十三才、津田梅子は八才です。そして他三名居った訳です。この人達はね、誠に美人揃いだし、頭もすばらしいし、非常に立ち居振る舞も正しいと絶賛を浴

びているんです。

一体、岩倉具視達とその女の留学生と何処が違うんだと、同じ日本人、同じく日本を代表して行つとる。ところが違う点があるんです。それはね、岩倉具視は下級公家の成り上りでしょ。そして大久保利通はじめ使臣達は皆薩長のどちらかという足軽から成り上った人達が多いですわな。立身出世主義の典型、偉い能力を持つているけれども立身出世主義の方なんですわ。立身出世主義に伴うその卑しさというかね、そういうもんがアメリカ人にピンときたんじゃないでしょうか。明治維新という大事業をなした訳ですけれども、そういう悪い面もあった訳で、いわゆる立身出世主義のその卑しさというか、そういうもんが今の日本にも残ってるんじゃないかという気がするんです。これはやっぱり徳川時代を見直すべき所があると思うんです。全く同じ日本人の代表を見て、同じアメリカ人が十年足らずで全然違う感じを受けてる訳ですよ。これはやっぱり徳川時代の日本人にすばらしい所があったと思うんです。

それはどういう点かという点です、例えば今朝日文庫で出ておりますが、ノモンハン、これはアメリカの歴史学者アルヴィン・D・クックス氏が書いて四巻になる膨大な本ですけれどもこれ実におもしろいです。第三者としてソ連と日本の資料を客観的に使って書いています。そしておまけにですね、ノモンハンの生き残りの將軍以下、下級下士官に至るまで何百人という人間に会つてですね、聞き取り調査までしているんです。そしてその結論は何かと言うとですね、それ

はこうなるんです。日本軍のですね、上級指揮官たち、これはね想像力に欠けると書いてあるんです。それから戦術に非常に未熟だと書いてあるんです。技術的に。そして頭の回転が悪いと書いてあるんです。そしてまた責任逃れの無責任な卑劣漢だと書いてあるんです。ところが下級指揮者たちは頭の回転もよく、それこそ最後の一兵に至るまで頑強に抵抗すると、そしてどうにもかなわんとなるとすぐ自決してしまつと、そして熟練度もたいしたもんだと、それくらい敬意を払っているんです。

ところがですよ、小隊長、中隊長、大隊長、連隊長あたりで勇戦敢闘した人は沢山居る訳ですよ。ところがね、中でもアメリカ人から見てもこれは偉いと思う人も左遷を受けている人が多いんです。そして自決を強いられて死んでしまった人も多いんです。それはつまり上司に反抗するとか、上司の意見を批判するとか、それが気にめさなかつたんですね。自決まで強いられている。とまあよっぽどですが、例えば私も役所に居つて役所に思うんですけれどもそのノモハンと同様のことは今も続いているんじゃないかと言うことです。それはどんなにすぐれた者でもですね。あまり上司を批評したりすると、先はもう無いんですね。そして結局イエスマンというのがどんな組織でも偉くなりやすいのは当たり前です。だからイエスマンをチェックするシステムというのが絶対必要なんです。それが有ると無いとでえらく違うんです。日本なんか無かつたんで八十年で日本は滅んだと思うんですね。そして戦後どうかといつたら戦後も同じようなもんです。

ところがまだ三高の頃ですけれども、三高に入ると上級生を呼び捨てですよ。これは僕はすばらしいイエスマンに対するチェックシステムになっていると思うんですね。これはすばらしい。しかしその三高を出て組織に入ってどうかという事は皆さんご体験された通りです。国としてそれをチェックしているのはイギリスであります。これはイギリスの官吏というのは上司に対して反対意見を述べる義務があります。それは上司が行こうと言ったら、自分も左に行つた方がいいと思つても一応は「右に行つたらいかげんかか」と言う義務があるんです。これは不思議な事と思つてたけど、今になるとそれはイエスマンに対するチェックシステムとして極めてすぐれていると思うんですね。そしてまたフランスはフランスで個人の意見がないと絶対に馬鹿にされます。イエスマンになれないです。存在しえないんです。フランスの社会は。だからこれがチェックシステムになっています。

ただアメリカはどうかというと、極端な実用主義で役所でも課長になって五年間経つと実績を調べられて、実績が上がってないと首になります。そういう形でチェックシステムになっています。イエスマンに対するチェックシステムが日本は何もない。これはなんとかせなかんと思つてますが、それは、「己を捨てて仁をなす」武士道の復活ではないかと思ひます。武士とゆうのはそういうのがあつたんじゃないかと思つてます。

国家を支える人材というのは、公共性と野性と両方備えていないといかんと思つてますよ。例

えば野性一辺倒となると田中角栄みたいになります。そして公共性一辺倒となるといわゆる官僚上がりの政治家ですね、こう言うと悪いけど福田さんとかですね。行儀はいいけどあまり国力を伸ばすという方には力がないです。公共性と野性両方備えた人間を育てんといかんという具合に思うわけですが、もう時間が参りましたのでこれで。どうも。

(第三者機関行政センター代表)